

平成 21 年 7 月

[配布先：全組合員]

## 市場情報

### 1. 委員長挨拶

市場委員長 酒匂 雅信

#### 在庫はさらに削減へ

5月の連休明けからようやく我々組合員の在庫が減り始めました。6月末には50万トンを超える勢いです。高炉、電炉メーカーの減産と会員の在庫調整の結果だと思えます。現状の切断量から考えると、何とか早く30万トン近くにならないかと思っております、各方面をお願いしております。

一方全国的に市中切板の安値が切り下がった由、叫び声が日増しに悲鳴のように聞こえてきますが、他方では対応できる母材も限られてきており、中国材ですら日本から逃げ出すほど安くなった現状、中国がスクラップをkg30円で輸入しはじめた現状から、我々も現状以上の値引きをメーカーに催促しても、当面はその気がないと認識しなければ自滅の道しかないと思えます。

秋から学校、病院、役所の耐震工事、橋梁、道路、土木の補修工事等、政府の緊急経済対策が数十兆程度出て参ります。きっちり腰を落とし、目標を定めてスウィングしないと空振りに終わります。

疑心暗鬼はお互いに損をするだけ、お客様と話をする回数を増やして、相互にウィン、ウィンの関係になるような関係を築くしかないと思えますが！「綺麗ごとばかり言うな」と叱られそうですが、まわりの環境のせいばかりにしても仕方ないし、高炉メーカーも電炉メーカーも、商社もみんな努力しています。経済産業省もバックアップしていただいております。われわれも今年は「気合でがんばる」しかないと思えます。

全国厚板シェアリング工業組合はあなたの味方です。いつも一緒にがんばります。

(京浜産業㈱ 社長)

## 2. 各地区の情勢動向

### 北海道

#### 多難な状況続く

「北海道は梅雨がない」と言われますが、今年は週末になるとうっとうしい雨、幼稚園、小学校の運動会シーズン、子供達も「明日天気になあれ」とてるてる坊主に祈っています。

景気も天候と同じで、連日の雨模様、鉄骨受注は、HファブとM・Rの中小ファブ、道央圏のファブと地方ファブと二極化が一層拡大、新規中小物件の見積もりようやく出てきたが、全体をカバーするには程遠い量で、景気対策としての農業関連施設、耐震補強案件や橋梁などの公共投資の早期発注が望まれる。価格については、本州切板価格・電炉切板価格・高炉材切り板価格と情報が錯綜、切板指値は一層厳しくなってきた。今後については、在庫問題と共に与信問題についても一層多難な状況が続くそうである。

(玉造 株式会社・西村卓也)

### 東京

#### 梅雨の入り口で

関東建材5社の08年度生産量は07年度比、約5%ダウンとなった。橋梁が前年度比9.1%増、鉄骨は7.4%減となったが、数量で忙しかったのは7月、10月、年明け3月の3ヶ月であった。数字が示すように橋梁には何とかロールがついたが、鉄骨にはあまり… そんな気もして繁忙感が無い不思議な一年でもあった。

今年度の立ち上がりは1/四半期が前年度比16%減の見通しとなりそうで、天気と同じく湿っぽい。2/四半期の稼働を聞いても明るい話は聞こえてこない。しかしながら景気刺激策の一つとして、7~9月の橋梁発注は多く、かつ迅速な手配を求められている、との話は聞くので、早ければ秋頃の手配で冬の加工に繋がってほしいところ。一方、鉄骨案件はやはり秋以降からの手配が多くなりそうだと聞くので、昨年度の需給アンバランスとは違う意味で上期の稼働損、下期の供給量と態勢作りが心配である。

また、建機関連の在庫調整はあまり進んでおらず、実発注は来年から？とも言われており、足元の稼働もさることながら年内の稼働も覚束ない状況である。

厚板のいずれの分野も低迷しているので、どの分野からいち早く動き出すかは分からないが、とにかく早い回復を願うばかりである。

(青柳鋼材興業・渋谷三男)

## 東 京

### 出口の見えないトンネル

ゴールデンウィークも終わり夏前の梅雨時期となりましたが、市場は陰湿な梅雨空。先頃の浦安鉄鋼団地の景況調査に於いてもすべての項目で悪化が85%以上と閉塞感は更に深刻な状況で、雇用調整で休業、一日の工程が埋まらない等、浦安鉄鋼団地境界も活気がなく前向きな話しは聞かれない。過剰在庫の解消も予想を上回る需要の激減で、調整は進展せず価格下落と積み増しが現実。(過去の学習)も役に立たず破壊的な価格での販売合戦を呈しており、不況などといった生やさしいものではなく危機的状況である。

このところ小規模な同業者の廃業、破産等の情報も増えている。ジリ貧が理由で再生も不可と言うことか。与信リスクは拡大、顧客からの価格要求は厳しく採算無視する以外名案は無い。フェーズ7を防御出来るマスクはどこで販売されているのか？

自身で考え、自身で乗り切る以外無いのだが。

(関東シェアリング・齋藤隆夫)

## 東 海

### 潜在的需要を信じて

昨年11月から、受注の極端な減少が始まり、以降3割操業となり、現在に至っております。交代休日を取り入れ、4勤3休体制の稼働にしても人的余剰感があり、7月から3.5勤3.5休体制の予定であります。人口1億の日本経済の潜在的需要を信じて、穏やかならざる心を静めて、需要回復を待ちます。

(名古屋鋼業・浅野昭夫)